

施策30 地域文化の伝承と創造

施策30		地域文化の伝承と創造															作成日：平成22年6月30日		主管課名：教育委員会生涯学習課		
Nº	施策名称	主管課	施策の対象	施策の対象指標	施策の意図	施策の成果指標	実績値 (H18)	実績値 (H19)	実績値 (H20)	実績値 (H21)	単位	目標値 (H21)	目標値 (H22)	取得方法	指標取得 主管課・係	算定式・取得先等	施策の21年度目標達成度とその要因	施策の総評価 (18年度から21年度までの達成状況)			
30	地域文化の伝承と創造	生涯学習課	①市民	①人口(17年3月末住民基本台帳人口+外国人登録人口)	①文化を守り、育み、郷土に誇りと愛着を持ってもらう	①郷土芸能協会に加入している部門数	37	36	36	36	部門	成 39	成 39	業務取得	生涯学習課	・郷土芸能協会の総会資料より把握	①郷土芸能協会に加入している部門数は、21年度目標値40部門に対して36部門で、ほぼ目標どりの実績値であった。 ⇒現状で保存団体はほぼ加盟している。今後は加盟部門数が飛躍的に増える要因はない。また部門の減少がみられるが、これは三陸地区の権現様保存団体等の脱退によるものであり、大船渡地区では権現様は従来から加盟していない。 ②国、県、市、の指定文化財の件数は、目標値が86件に対し、86件である。 ⇒目標どおり保存できている。 ③日頃から継続して芸術文化活動をしていると答えた市民の割合は、21年度目標値19.0%に対し11.6%で目標値より下回っている。 ⇒全体的に割合は横ばいである。50歳以上の市民の活動割合は高いものの、それ以外の年代の活動が低下している。また芸術文化活動のなかには鑑賞活動も含まれるが、アンケート回答者は、創作活動のみと限定的にとらえているのではないかと考えられる。 施設の整備では、市民待望の市民文化会館が20年11月に完成、開館し、以後多くの市民に利用されている。ここが芸術文化の創作や鑑賞の場として活用されることで、市民の文化活動や意識が大きく進展するものと期待される。	成果指標の推移をみると、全体的に横ばいであり、郷土芸能や文化財は維持されている。また「日頃から継続して芸術文化活動をしていると答えた市民の割合」は目標値よりも実績値が下回っている。その要因としては、50歳以上の市民の活動割合は高いものの、それ以外の年代の活動が低下しており、また芸術文化活動のなかには鑑賞活動も含まれるが、アンケート回答者は、創作活動のみと限定的にとらえているのではないかと考えられる。			
						②国、県、市の指定文化財の件数	国 9	国 9	国 9	国 9	件	成 国 9	成 国 9	業務取得	生涯学習課	・台帳より把握					
							県 8	県 8	県 8	県 8		市 69	市 69						目 国 9	目 国 9	
						③日頃から継続して芸術文化活動をしていると答えた市民の割合	市 69	市 69	市 69	市 69		成 14.5	成 15.0	市民アンケート	生涯学習課	・H21市民意識調査(問22) あなたは、日常生活の中で、取り組んでいることはありますか？ →3. 日頃から継続して何か芸術・文化活動を行っている 11.6%					

Nº	基本事業名称	主管課	基本事業の対象	基本事業の対象指標	基本事業の意図	基本事業の成果指標	実績値 (H18)	実績値 (H19)	実績値 (H20)	実績値 (H21)	単位			取得方法	指標取得 主管課・係	算定式・取得先等	基本事業の成果水準とその背景	基本事業の成果実績に対してのこれまでの 主な取り組み(事務事業)の実績
1	文化財の保存と活用	生涯学習課(博物館)	①市民 ②文化財(有形・無形)	①人口 ②指定文化財の数	①保存・活用される ②次世代に継承される	①博物館資料登録件数	5,831	5,902	6,203	6,208	件			業務取得	生涯学習課(博物館)	・年度内に整理できた資料点数の累計数値を把握	①博物館博物館資料登録件数は、6,208件で、21年度において5件の資料登録を行った。 ⇒資料の調査研究、整理に努め、主に地質(化石)に関する資料登録を行った。	主な事務事業は以下のとおり ・文化財保護管理事業 ⇒文化財調査委員会の開催、文化財公有地の刈払い、文化財パトロール、開発行為等によって影響を受ける文化財の取扱い指導・発掘調査等を行い、文化財の適切な保護、維持管理を図っている。 ・文化財整備普及事業 ⇒史跡等保存整備に係る諸計画の検討、文化財説明看板等の設置・更新等を行い、文化財の普及と愛護思想の啓発を図っている。 ・博物館収集保管事業 ⇒21年度の収集資料件数は13件、未登録収集資料も含め、整理・登録を行なった件数は、5件。主なものは地質(化石)資料。 ・博物館展示事業 ⇒21年度の博物館の企画展示では「基石海岸～磯の魅力～」、特別陳列では「民俗資料展Ⅴ」を開催し、気仙地域の自然や文化を紹介した。
2	芸術・文化の振興	生涯学習課	①市民 ②活動団体 ③芸術文化活動	①人口 ②芸術文化協会加盟団体数	①芸術文化活動を行ってもらう	①市民芸術祭出品数	3,865	3,557	3,678	3,351	点			業務取得	生涯学習課	・H21部門別事業終了報告書 出品作品総数	①市民芸術祭出品数は3,351点で、前年比327点減少した。 ②市民芸術祭出演者数は4,178人で、前年比14人増加した。 ③市民芸術祭観覧者数は11,878人で、前年比764人減少した。 ④芸術文化団体数は50団体(H20:50団体)で、前年と同じ。 ⇒ ・市民芸術祭を前年比からみると、出演者数が増加したが、近年の傾向では実績値に若干の変動があるがほぼ横ばいである。 ・21年度も社会教育指導員(芸術文化担当)1名を配置し、市民の芸術文化活動に対する調整、支援を充実させ芸術文化の振興を図った。 ⑤市民文化会館自主事業のうち、自主事業実行委員会が主体となって行った事業は17事業で、延べ観覧者数は4,627人であった。市が主体となって行った事業は8事業で、延べ観覧者数は7,047人であった。	主な事務事業は以下のとおり ・芸術文化鑑賞事業 ⇒鑑賞事業として、一般向けに1件(落語)、児童生徒に対して2件(声楽、ミュージカル)の優れた舞台芸術等の鑑賞機会を提供し、市民の豊かな感性を育成した。 ・芸術文化活動支援事業 ⇒芸術文化団体、創作活動グループ等の活動成果を発表・展示するものとして10月から11月にかけて市民芸術祭を開催し、芸術文化への関心の喚起、自主的な創作活動や地域文化の向上を図った。 ・市民文化会館自主事業 平成19年10月に設立した自主事業実行委員会は、平成21年度末までに延べ86回におよぶ会議の中で自主事業のあり方や芸術文化の普及等について検討を重ねるとともに、リアスホール開館後における利用促進を図るための各種事業の企画運営を実施した。 プレイベント2回、お試し事業「キッズチャレンジ」「クラフトワーク展」など8回、鑑賞事業「1,000円でクラシック」4回、対象別事業「親子向け絵本作家宮西達也講演会＆原画展」1回、市民参加型事業「リアスウェーブフェスティバル」2回のほか舞台技術ワークショップや映画上映など様々な事業を展開した。 総合評価＝B
						②市民芸術祭出演者数	4,545	4,046	4,164	4,178	人			業務取得	生涯学習課	・H21部門別事業終了報告書 出演者総数		
						③市民芸術祭観覧者数	12,030	12,662	12,642	11,878	人			業務取得	生涯学習課	・H21部門別事業終了報告書 参観者総数		
						④芸術文化協会加盟団体数	50	50	50	50	団体			業務取得	生涯学習課	・事務局にて把握		
						⑤市民文化会館自主事業実施回数及び観覧者数	—	—	7	25	件			業務取得	市民文化会館	・事務局にて把握		